

科目名	育成支援看護学特論Ⅲ (Advanced Study of Women's Health Care Ⅲ)			科目コード	M207
選択区分	選択	履修時期	1 後	単位数 (時間)	2 単位 (30時間)
担当教員	中越 利佳			関連DP	看①②③
授業概要	女性の次世代を産み育てるという特徴を持つ時期を焦点に、親としての意識の形成、母性意識・家族の発達、思春期のセクシャリティの発達に関する理論理解を通して、理論と実践の関連性や今日の課題について研究的視点をもって教授する。				
授業目標	親になるための発達支援について理論を用いて考察することができる。 母性・父性、親性意識の発達支援のついての理論を深めることができる。 リプロダクティブヘルス/ライツ、ジェンダーによる女性の生涯にわたる健康支援について理論を用いて考察することができる。				

授業内容とスケジュール

回	項目	内 容
1	ガイダンス	育成支援看護学特論Ⅲの進め方
2	親性発達理論	親になる意識の発達理論 2 －「親になれない」親－
3		女性の Well-being と親になる意識 －父親役割および夫婦関係との関連－
4	母性意識の発達支援	母性意識の向上と家族の発達支援 －子育ての課題と子育てを取り巻く政策と社会制度－
5		母性意識の発達に関連する主要概念・理論 －女性性、親役割、母性意識理論－
6		母性意識に関連する主要概念・理論 －Transition:移行、ストレスコーピング－
7		母性意識の向上と子育て支援 －ディスカッション:理論を通して子育て支援を検討する－
8	ウイメンズヘルスと ウエルネス	女性へのウエルネス・ケア：指針となる枠組みとウイメンズヘルス
9		女性のレジリエンスとセルフケア
10	思春期の健康支援	思春期のジェンダーとセクシャリティ 1 －思春期のジェンダーとセクシャリティ意識－
11		思春期のジェンダーとセクシャリティ 2 －性教育の現状と課題に関するディスカッション－
12		思春期のジェンダーとセクシャリティ 3 －思春期の健康課題と支援、活用できる行動変容理論－
13・14	理論活用	実践場面を生涯発達理論、母性理論・行動変容理論を用いて整理する －臨床場面(経験)を振り返る－
15		実践の場における課題解決における理論・モデル活用を探る
成績評価方法	ディスカッション内容 (30%)、課題に対するレポート内容 (70%) をもとに総合的に評価する。	
必携あるいは 参考図書・文献	参考図書・文献 ①神場征峰：実践ヘルスプロモーション，医学書院 ②エレン・F オルシヤンスキー：ウイメンズヘルスとウエルネス、ゆう書房 ③David Miller & John Green 川野雅資訳：性の心理，日本放射線技師会出版会 ④荒堀憲二、松長賢長：性教育学，朝倉書店 ⑤「発達心理学研究」「家族心理学研究」等の学術雑誌 Marc H. Bornstein: Cultural Approaches to Parenting 1991, Lawrence Erlbaum associates, publishes. 他、母性・父性・家族に関する国内外の論文	
授業時間外の 学習について	文献検討等の課題学習に関しては授業時間外の学習となる。	
関連科目	205 育成支援看護学特論Ⅰ、206 育成支援看護学特論Ⅱ	
備考	育成支援看護学特論Ⅰの履修を前提とする。	